



# 地球は生きている —ガイア理論が教えてくれること—

心あつたかニュース

地球は一つの生命体であると唱えたのが、ガイア理論で、アメリカ航空宇宙局（NASA）に勤務していた科学者であるジエームズ・ラブロックにより提唱されています。ウイキペディアによると、生物は地球と相互に関係し合い、自身の生存に適した環境を維持するため自己制御システムを作り上げているとする仮説また、そのシステムをある種の「巨大な生命体」と見なす仮説である。といふことです。この理論は、とても日本人には、受け入れやすいのではないかと感じました。太陽をお天道様、物に命があつて、物の方からの気持ちを汲んでしまうことを、抵抗なくしてしまった民族です。ガイア理論<sup>II</sup>

一つの生命体の要点は、1大気、海、土壤、生物がバラバラではなく、全体で自己調整するシステムとして働いている。酸素濃度、気温、海の塩分濃度が生命に都合のいい範囲に長期に保たれています。2生物の方も適応するだけでなく、環境を作つていよいよ植物は、酸素を増やし、

微生物は、土壤と大気の成分を変え、海洋生物は、化学バランスを保つ働きをしています。3地球は恒常性を保とうとします。恒常性<sup>II</sup>ホメオスタシス、は生物において、その内部環境を一定の状態に保ち続けようとする傾向のことですが、地球では、気温が上がると雲が増え、日射が弱まる。CO<sub>2</sub>が増えると、植物が増えCO<sub>2</sub>の吸収が進む、海の水のPHなど、地球の環境は、元へ戻ろうというシステムが働いています。恒常性は、生物がもつものですから、地球が生きているという、理論もなるほどな、とうなずけます。恒常性は、生物がもつものですから、地球が生きているという、理論もなるほどな、とうなずけます。恒常性は、生物がもつものですから、地球が生きているという、理論もなるほどな、とうなずけます。

割、「地球はどうしたいのか?」ということだとthoughtいた。これは、日本人は、得意だと思います。おそらく古代の日本人は、ここを明確にして暮らしていたのではないかと思えます。地球からしたら、自然と人間は同じ生きるものかもしません。地球さんが、一つの大きな生であります。地球からしたら、自然と人間は同じ生きるものかもしません。地球さんは、絶滅危惧種からはずれています。2025年これら生物は、絶滅危機から救われ、保護

されおり、環境保全の取り組みの成果として評価されているそうですね。現在日本の絶滅危惧種は、イリオモテヤマネコ、コウノトリ、トキが知られていますが、ラッコも2024年からはいつまでいります。国内施設での飼育頭数は年々減り、今や3頭しかいないそうです。ラッコが生息するためには、綺麗な海の環境が必要となります。ゴミを川や海に捨てないなど、きれいな海を目指していきたいと思います。

**編集後記**

地球が一つの命だとしたら、私たち地球にとつて、どんな存在なのです。地球上から対話を始める瞬間に、細胞なのか? 地球の癌細胞なのか? それとも細胞なのか? 地球の細胞なのか? それとも細胞なのか? 地球の細胞なのか? 地球の細胞なのか? 地球の細胞なのか? 地球の細胞なのか? 地球の細胞なのか? 地球の細胞なのか? 地球の細胞なのか? 地球の細胞なのか? 地球の細胞のか

さされており、環境保全の取り組みの成果として評価されているそうですね。現在日本の絶滅危惧種は、イリオモテヤマネコ、コウノトリ、トキが知られていますが、ラッコも2024年からはいつまでいります。国内施設での飼育頭数は年々減り、今や3頭しかいないそうです。ラッコが生息するためには、綺麗な海の環境が必要となります。ゴミを川や海に捨てないなど、きれいな海を目指していきたいと思います。